

アフリカの森の民と語り合おう

ピグミーと呼ばれるアフリカの先住民族が東京と札幌にやってきました！

2024年12月14日(土) 自由学園 講演

時間: 午前中(学生限定講演) 14:30 - 16:00(一般向け 講演)
会場: 学校法人 自由学園 東京都東久留米市学園町 1-8-15
主催: 学校法人 自由学園
共催: 現代の理論・社会フォーラム
参加費: 無料 詳細・申込: <https://ikikata2024.peatix.com/>



2024年12月15日(日) 芸能山城組 講演

時間: 午後(関係者限定)
主催: 芸能山城組 東京都中野区東中野1-22-3
参加費: 無料

2024年12月17日(火) 屋台大学 講演

時間: 18:00 - 19:30 講演 19:45 - 20:45 懇親会
会場: (株)内田洋行新川本社ビル 2F 東京都中央区新川2-4-7
主催: (株)内田洋行
共催: 現代の理論・社会フォーラム // ハルコロ / 日本森林管理協議会 / 日本サステナブル・ラベル協会
参加費: 無料(オンライン配信あり) 懇親会参加者は1,000円
連絡先: s.kurauchi@powerplace.co.jp 担当者: パワープレイス株式会社 倉内

2024年12月18日(水) 武蔵野美術大学 講演

時間: 19:00 - 20:30 トークショー 20:45 - 20:45 懇親会
会場: 武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス 無印 東京都新宿区市谷田町1丁目4
主催: 武蔵野美術大学 造形構想学部 若杉研究室 / 自律協生スタジオ
共催: 現代の理論・社会フォーラム // ハルコロ / 日本森林管理協議会 / 日本サステナブル・ラベル協会
参加費: 無料(オンライン配信あり) 懇親会参加者は2,000円(予定)
連絡先: kwakasugi@musabi.ac.jp 担当者: 武蔵野美術大学 教授 若杉

2024年12月21日(土) さっぽろ自由学校・遊 講演

時間: 14:30 - 17:00 トークショー 18:00 - 20:00 交流会
会場: トークショー 北海道大学学術交流会館 北海道札幌市北区北8条西5丁目8-1
交流会 北海道クリスチャンセンター 北海道札幌市北区北7条西6丁目
主催: さっぽろ自由学校・遊/メノコモシモシ(アイヌ女性会議) / アイヌ政策検討市民会議/子供と作ろう種から育てる未来の森
共催: 現代の理論・社会フォーラム / 日本森林管理協議会 / 日本サステナブル・ラベル協会
参加費: トークショー無料 交流会参加者は2,000円
連絡先: moshikomi@sapporoyu.org (「アフリカ森の民」参加と明記)

このたびの招聘及びイベント開催にあたっては多くの方々からのクラウドファンディング READING FOR YOU のご寄付およびその申請団体であった「現代の理論・社会フォーラム」へのご寄付から成り立っております。みなさまのご協力に感謝いたします。あらためてお礼を申し上げます。

アフリカの森の民と語り合おう

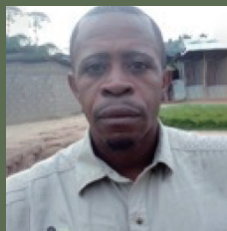
ピグミーと呼ばれるアフリカの先住民族が東京と札幌にやってきます！



われわれ人類の直接の祖先であるホモ・サピエンスは数10万年前にアフリカの熱帯林地域で誕生、その後世界に拡散していき現在のわれわれに繋がっています。その熱帯林地域を出すそこにとどまって近年まで森林の中で狩猟採集生活を営んできたのがピグミーという人たちです。その意味でピグミーはわれわれ人類の原型の生き証人も位置づけられます。

このたびのプロジェクト担当者である西原智昭は、1989年から2019年まで30年間、アフリカ・コンゴ盆地の熱帯林で野生生物の調査研究や熱帯林生態系保全の実務に携わってきた中、森を熟知する先住民族ピグミーのサポートを常時受けてきました。

その中でコンゴ共和国にてもっともお世話になってきたピグミー2名と彼らをよく知るコンゴ人研究者1名、合計3名を日本にお招きします。「人類の原型の生き証人」とも言える彼らの声を直接聞き彼らとの交流を持つことで、もともと人間のあり方をあらためて学ぶヒントを得ることができるかもしれません。自殺のない社会に象徴される彼らの心豊かな社会とはなにか、同時に我々の豊かで便利な社会を支えるための資源開発ゆえに彼らが依拠してきた森林を失う現実などについて、あらためて考える機会となりましょう。この極めて稀な機会に、是非彼らにお目にかかりましょう。



▶ 日本に招聘されるピグミーのアンボロ氏・アヘア氏・コンゴ人研究者マロンガ氏(左から)



© 西原智昭

▶ ピグミーの伝統芸能「ジェンギ」

注:「ピグミー」というのはかつてヨーロッパ人がアフリカ大陸に入植したとき以来「背が低い人々」のことを意味する蔑称であったが、現在はアフリカ・コンゴ盆地の熱帯林各地域により「民族」という形で集団名が付される狩猟採集民族である。ただ彼ら自身も長年総称として自ら「ピグミー」と呼ぶ習慣があり、ここでは彼らの総称として限定的に使用させていただきます。

企画担当者・西原智昭のプロフィール

コンゴ共和国などアフリカ熱帯林にて野生生物研究や森林保全に30年間従事。現在、日本森林管理協議会(JF)ジャパン事務局長、WCS(野生生物保全協会)自然環境保全研究員、および現代の理論・社会フォーラム先住民族研究会事務局員。京都大学出身、理学博士。人類の起源と本質、自然環境保全、先住民族、エンカル社会等を問う。著書『コンゴ共和国とマルミミソウとホテルの行き交う森から(増補改訂版)』(現代書館2020年)など。



© 西原智昭

▶ 西原智昭(左)とアンボロ氏

